

9. 領域「環境」と食農保育・食育

千田 眞喜子^{1*}・笹谷 絵里¹

¹花園大学社会福祉学部児童福祉学科（〒604-8456京都府京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1）

* E-mail: m-senda@hanazono.ac.jp

「環境」及び幼児教育・保育の領域「環境」について概念をまとめ、食農保育・食育との関係性をもとに幼稚園・保育所・こども園の取り組み事例を紹介する。それぞれ独自の取り組みがあり、また、園の立地条件をうまく利用した事例もあった。身近な野菜を育てる事例が多くみられ、農業・食への興味関心を高める工夫の園が多く、環境教育の基礎を幼児期に遊びを通して行っていることが確認された。

Key Words : environment, education for sustainable development, childcare of food and agriculture, early childhood education

1. はじめに

「環境」には、多様な意味がある。広辞苑²⁾によると、「1)めぐり囲む区域、2)四囲の外界。周囲の事物。特に、人間または生物をとりまき、それと相互作用を及ぼし合うものとして見た外界。自然的環境と社会的環境とがある。」としている。どの視点から環境を考えるかにより環境は様々に認識・分類されている。

例えば、公衆衛生においては、人間の健康に及ぼす環境は、「自然的環境（植物、動物、微生物など）」、「物理的環境（光、熱、放射線、音など）」、「化学的環境（化学物質、大気・土壌成分）」、「社会的環境（医療、学校、職業、政治、経済など）」の4つがあり、それらは相互に関連しているとしている³⁾。

また、「子ども環境管理士」⁴⁾の民間資格では、「子どもの周りの環境には、土、水、大気、太陽の光、生物がある」としている。これはこの資格に関与する公益財団法人 日本生態系協会（2020）⁵⁾の次のような認識に基づいている。

環境を生態系の観点から捉え、「生態系は、土、水、大気、太陽の光、そしてそこにくらす多くの野生の生きもの、これらの要素が複雑に関わり合って成り立っている」。

以上のように、「環境」は多様であるが、生物の生活について考えられている概念であり、生きている生物の周囲にあって、相互作用をもつすべてのものを指す。本研究では、幼児教育・保育の分野での領域「環境」と、

環境教育でもある食農保育や、地球環境と深くつながりがある食育についてまとめ、事例を紹介する。

2. 領域「環境」

幼児教育・保育の分野での領域「環境」について、概ね幼稚園教育要領⁶⁾（表-1）、保育所保育指針⁷⁾（表-2）に基づき次のような解釈がなされている。

幼児における環境教育と領域「環境」との関連について、酒井・守ら（2018）⁸⁾は、以下のように述べている。ESD（Education for Sustainable Development）に代表されるように、環境保全に寄与する取り組みは、今後の教育や保育の方向性として重要な位置を占める。幼稚園や保育所などの幼い子どもにもその時期でなければ身につかないことがある。また、環境を「人的環境（園で働く人々、子ども同士、家庭、地域の人）」、「物的環境（遊びに関する物、生活の道具、物の性質と仕組み、数量や図形、文字・標識に関する感覚、大切な物）」、「自然環境（季節、植物、動物、身近な自然）」、「社会的環境（園、地域社会、関係機関）」に分類している。

柴崎・若月（2011）⁹⁾によると、領域「環境」には、「自然環境」、「物的環境」、「時間的環境（自発活動時間の長さや設定）」の3つがあるとしている。指導計画を立てる上でこの3つの考慮が必要である。

武藤ら（2018）¹⁰⁾によると、環境は子どもの生活圏の範囲にあるものである。環境の内容を、「自然との関わりの中での環境」、「ものとの関わりの中での環境」、

表-1 幼稚園教育要領の領域「環境」：周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

ねらい	内容
1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 2) 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。 5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。 6) 身近な物を大切にする。 7) 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 8) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。 9) 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。 10) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。 11) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

文部科学省（2017）より作成。

表-2 保育所保育指針の領域「環境」：周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

	ねらい	内容
1歳以上3歳未満児	1) 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。 2) 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。 3) 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。	1) 安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。 2) 玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。 3) 身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。 4) 自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ。 5) 身近な生き物に気付き、親しみをもつ。 6) 近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。
3歳以上児	1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。 5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。 6) 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。 7) 身近な物を大切にする。 8) 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 9) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。 10) 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。 11) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。 12) 保育所内外の行事において国旗に親しむ。

厚生労働省（2017）より作成。

保育所保育指針の乳児（0歳児）には領域はなく、視点がある。領域「環境」に将来つながる視点は、「身近なものとの関わり感性が育つ」である。

「数量や文字との関わりの中での環境」，「地域と社会との関わりの中での環境」の4つに区分している。そして、持続可能な社会へ役立つ人になる基礎を幼児期に培う。

田宮（2018）¹¹⁾によると、領域「環境」を、「物的環境」，「自然環境」，「生物的環境」，「数量と文字の環境」の4つに区分している。

以上より、領域「環境」は、第1章で述べたと同様に、幼児の周囲にあって相互作用をもつすべてのものとされている。

3. 食農保育と食育

ここでは、食農保育・食育について述べる。2005年に食育基本法¹²⁾が制定され、食育は人としての自立と自尊のための生涯教育と位置付けられた。

小川ら（2020）¹³⁾によると、食農保育には「食育」，「栽培」，「収穫」，「エコ活動」が含まれている。食農体験は“環境教育”でもあり、活動を通して食糧資源の大切さを学ぶことができる。食農保育の目的を次に示す。

- 1) 栽培を通して、身近な植物に興味を持ち、生命の不思議さや尊さに気づく。
- 2) 世話（種まき、苗植え、水やり、草むしり）を通して、自然への愛情や畏敬の念を抱き、命の育ちに気づく。
- 3) 収穫を通して、食材の特徴や色や形、数量や重さ、長さに関心を持つ。
- 4) 食べられる感謝の念を通して、食糧や資源を大切にし、無駄や廃棄に気づく。

4. 幼稚園・こども園・保育園での環境保育・食農保育・食育の具体的な事例

聞き取り調査やフィールドワークなどにより集めた幼稚園、保育園、こども園での具体的な取り組み事例を示す。

(1) A 保育園

食べ物がどのようにして育ち、食材になるかを子どもたちに知らせるためにAこども園では、たくさんの種をまいている。育ったら調理室を通して子どもたちの給食やおやつに登場する。園庭に野菜や果物を栽培し、子どもたちが水やりなどを行う。春から夏休みまでは茄子、ピーマン、トマト、きゅうりなどの夏野菜を栽培し、毎

日作物が大きくなる様子を子どもたちは楽しみにしている。

(2) B こども園

食育として和食を多くしている。木のお椀を使う。パケツ稲を育て、収穫したもち米を餅つきで使用する。お寺の境内で緑豊かな環境で子どもたちは遊ぶ。

(3) C 幼稚園

園庭の一部を耕し、サツマイモやトマト、キュウリなどを植えている。子どもたちも一人一鉢好きな野菜（ピーマン、トマト、なすびなど）を育てる。収穫物を親と一緒に園で調理する行事もある。トマト嫌いの子どもが、自分で育てたトマトなら食べるというエピソードもあった。

(4) D 幼稚園

自然いっぱいバイオトープ（地域の野生の生きものたちが生息・生育する空間⁵⁾）のある幼稚園である。クスノキの大木があり、子ども達の夢のイメージが広がる。幼児期の大切な心の育ちを応援する自然環境が詰まった園である。生活に融和した自然体験を育ちの視点から教育内容に組み込んで、子どもたちに無理なく、生きる力の基礎を培う。旧小学校の時代から地域の大切な教育施設である。幼小中や地域とともに連携している。全国学校・園庭バイオトープコンクールにて、2011 ドイツ大使館賞受賞園、2013 日本生態系協会賞受賞園、2017 日本生態系協会賞受賞園、2019 日本生態系協会会長賞受賞、ソニー幼児教育支援プログラムにて2018 奨励園受賞している。

(5) E 幼稚園

この園では、園庭に天然芝を使用し、土と草を感じることで、草木や虫から命の大切さを学ぶことにつなげている。給食はビップェ形式を採用し、食べ残しがない様に食べられる量を自分で考えることで、子ども自身が決断と責任を自然に伸ばす機会としている。園児と保育者が一緒にプランターでプチトマトやオクラを育てることで、植物が成長していく姿を子どもたちの学びや体験の機会として大切にしている（図-1, 2, 3）。

(6) F こども園

神社の境内に位置し、土があり、砂があり、草木があり、山が近く、傾斜があり、小川がある環境を「大地」と呼ぶ。小川が園庭を横切り、途中には流水型の田んぼもあり、わずかだがお米も収穫する。虫取り、野菜や草花の栽培も積極的に行う。卒業前年度の秋に鎮守の森に



図-1 プランターを利用したオクラやミニトマトの栽培.



図-2 オクラの説明の絵の表示. オクラの特徴的な星形の断面も表示して, 子どもたちの好奇心に応えている.



図-3 ミニトマトの説明の絵の表示と, トマトの黄色い花や緑色から赤く色づき始めたミニトマト.

落ちた椎の実をプランターに埋めて春を待ち, 4月になって森から出されたプランターで育てる. 育った幼木を子どもたちの手作りの植木鉢に移植し, 鎮守の森で行う卒園式で持ち帰る.

(7) G 幼稚園

生き物と触れ合えるビオトープがある. 植物観察・生き物観察を子どもたちが喜んで行っている. 「大地と遊ぶ, 空と遊ぶ」をコンセプトの建物で, 天井近くのガラス張りの窓から空と木の緑が眺められ, 太陽光も降り注ぐ構造で自然を身近に感じる.

(8) H 幼稚園

隣接した神社等，周囲には豊かな自然があり，広々とした園庭が確保され，春は桜の花が咲き，秋には紅葉が美しくなる．園庭には小さな畑を設けており，子ども達がトマトやナス，サツマイモ等を育てて観察日記を書いている．

4. まとめ

事例で示したように，それぞれ独自の取り組みがあり，また，園の立地条件をうまく利用した事例もあった．身近な野菜を育てる事例が多くみられ，農業・食への興味関心を高める工夫の園が多かった．子どもは遊びを通して学ぶが，園が環境教育の基礎を幼児期に遊びを通して行っていることが確認された．

謝辞：聞き取り調査に応じてくださったA保育園，Bこども園，C幼稚園，D幼稚園，E幼稚園，Fこども園，G幼稚園，H幼稚園の教職員の皆様に深く感謝申し上げます．

参考文献

- 1) 新村出編：広辞苑，岩波書店，pp.3216，2018.
- 2) 鈴木庄亮監，小山洋，辻一郎編：シンプル衛生公衆衛生

学，南江堂，pp.416，2018.

- 3) 岡崎勲，小林廉毅，豊嶋英明編：標準公衆衛生・社会医学(標準医学シリーズ)，医学書院，pp.440，2009.
- 4) 公益財団法人日本生態系協会：こども環境管理士，<http://kodomo-kankyoku-kanrishi.org/>，（参照日：2020/07/10）．
- 5) 公益財団法人日本生態系協会ホームページ，<http://ecosys.or.jp/aboutus/index.html>，（参照日：2020/07/10）．
- 6) 文部科学省：幼稚園教育要領，2017.
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/，（参照日：2020/07/10）．
- 7) 厚生労働省：保育所保育指針（平成二十九年三月三十一日）（厚生労働省告示第百十七号），2017.
https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010450&dataType=0&pageNo=1，（参照日：2020/07/10）．
- 8) 酒井幸子，守巧編，岡澤陽子，杉本裕子，平野麻衣子，松山洋平，山下文一著：保育内容「環境」あなたならどうしますか？，萌文書林，pp.233，2018.
- 9) 柴崎正行，若月好浩編，塩崎政江，松田好子，山田りよ子，高橋昇，金澤妙子，濱田彩希著：保育内容「環境」，ミネルヴァ書房，pp.168，2011.
- 10) 無藤隆監，福元真由美，井口眞美，田代幸代編，砂上史子，横井紘子，山崎奈美，中野圭佑，山田有希子，野口隆子著：新訂事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境，萌文書林，pp.237，2018.
- 11) 田宮縁：体験する 調べる 考える 領域「環境」，萌文書林，pp.223，2018.